「みんなの夏祭りチャレンジ・ド・２００５」に参加して (8/6)

「チャレンジド」に込められた意味とは……

遅い梅雨明け（8／3）の途端に、連日３０度を超す猛暑の仙台。
家に居ても暑いなら、ドライブであれば車内冷房で涼しいだろうと思い、仙北の三本木町の「ひまわりの丘」へ。
今朝「『ー 障害の有無の壁を乗り越えて集うー みんなの夏祭りチャレンジ・ド ２００５ in 大崎』に自分たちのサー クル活動も参加する」とのメル友からの情報もありついでに足を延ばしてきた。
地域の障害児・者の施設、親の会、養護学校等々のバザー（写真：右）、ステージ発表、遊びのコーナー等があり、たくさんの人々が参加し楽しんでいた。

障害児・者施設等が、この時期に独自に夏祭りを開催するが、このように地域の各施設が連携し、合同で夏祭りを企画・運営するのも、幼児期、学齢期、そして卒後の通所時期と、地域の中での障害児・者の関係施設等が一同に会するだけに、これからの地域の福祉施設の連携の新たな試みの一つかなと思った。

１１月の「全日本高等学校吹奏楽大会横浜」に出場が決定している地域の高校の in 吹奏楽部の演奏（写真：上）は、見応え、聴き応えがあった。
そうそう、以前に当HPに記載した「講演録：『娘とはじめたケーキやさん』に接して（雑学バックナンバー 書籍等読後感関係（II）2005.05.04.：参照」の親子も手作りのケーキ類のバザーを出店していたので、少しばかり購入した。
お子さんが電卓を打って会計をしてくれた姿に、何ともほのぼのしたものを感じた。
メル友たちのグループの「おもちゃ図書館」のコー ナー の前では、子どもたちが楽しんでおり、メル友親子も汗を流しながら対応していた（私が予告なく訪ねたので、メル友を驚かせたよう ^o^）

最近、障害者と言わずに「チャレンジド」という表現に接することがある。
「チャレンジド」と受け身形になっているのは「神様から挑戦すべきことを与えられた人たち」の意味もあるとか。 つまり「ハンディを神様から与えられて試されている、いわば神様から選ばれた人たち」との意味が込められているよう。
同じような意味を込めた、障害のある子どもを産んだ親へのメッセー ジの「天国の特別な子ども（エドナ・マシミラ作」と詠った詩もあったなあ。）

2

宮城県

平成16年2月20日更新 / 広報課

知事随筆「助走」 保健福祉 チャレンジド

1998年10月号掲載

「障害者」という呼び方はなんとかならないだろうかという声がよく聞かれます。「障害」というのは、呼ばれる人達にとっても、決して感じのいいものではないでしょう。

最近、「チャレンジド」という言葉が障害者を意味するものとして使われ始めました。初めてこの表現を聞いた時に、私は挑戦者という意味の「チャレンジャー」というほうがいいのに、どうして「チャレンジド」と受け身形になっているのか疑問でした。神戸で重い障害者のためにパソコンを使っての在宅就労を進めている竹中ナミさん達が「チャレンジド」を使い始めた最初のグループなので、彼女に会った時に尋ねてみました。

「神様から挑戦すべきことを与えられた人達という意味なんですよ」と竹中さんは説明してくれました。なるほど、いろいろなハンディキャップを神様から与えられて試されている、いわば神様から選ばれた人達と考えればいいのか。私も納得がいきました。

先日、県民会館で長崎のコロニー雲仙の卒業生達による瑞宝太鼓の演奏を聴きました。全員知的な障害を持っています。何にもできないと思われ、何にも自信が持てないでいた人達が太鼓に出会い、大きく変身を遂げます。リズム感にあふれた力強い瑞宝太鼓の響きに耳を傾け、舞台の上で躍動する若いエネルギーに目を奪われているうちに、自然に感動の涙があふれてきました。

神様から選ばれた存在。挑戦の機会を与えられ、こうして太鼓に、そして仕事に挑戦していっている人達です。その姿に「チャレンジド」というのはまさにこういう人達にぴったりの呼び方なんだと、改めて心にしっくり収まるのを感じました。

もどる

▲ページのトップへ戻る

総務部広報課広報報道班
電話：022-211-2283 / E-mail：kohou@pref.miyagi.jp

Copyright(C)2004.Miyagi Prefectural Government. All Rights Reserved

3

京都ダウン症児を育てる親の会（トライアングル）

わたしたちのねがい

染色体異常の子どもを持たれたご両親のために

天国の特別な子ども

会議が開かれました。
地球からはるか遠くで
“また次の赤ちゃん誕生の時間ですよ”
天においでになる神様に向かって　天使たちは言いました。
“この子は特別の赤ちゃんで　たくさんの愛情が必要でしょう。
この子の成長は　とてもゆっくりに見えるかもしれません。
もしかして　一人前になれないかもしれません。
だから　この子は下界で会う人々に
とくに気をつけてもらわなければならないのです。
もしかして　この子の思うことは
なかなか分かってもらえないかもしれません。
何をやっても　うまくいかないかもしれません。
ですから私たちは　この子がどこに生まれるか
注意深く選ばなければならないのです。
この子の生涯が　しあわせなものとなるように
どうぞ神様　この子のためにすばらしい両親をさがしてあげてください。
神様のために特別な任務をひきうけてくれるような両親を。
その二人は　すぐには気がつかないかもしれません。
彼ら二人が自分たちに求められている特別な役割を。
けれども　天から授けられたこの子によって
ますます強い信仰を　より豊かな愛をいだくようになることでしょう。
やがて二人は　自分たちに与えられた特別の
神の思し召しをさとるようになるでしょう。
神からおくられたこの子を育てることによって。